

# 第 14 回帯広市産業振興会議 議事要旨

場所：帯広市役所 10 階第 5B 会議室

日時：平成 27 年 3 月 30 日（月）17：00～

## 1. 開会

## 2. 報告

### ■産業振興ビジョンの改訂・公表について

（事務局）冒頭市長の挨拶文を掲載しており、本ビジョンに基づき産業振興を行う旨明記している。

・報告通りとして質疑応答なし

### ■具体化に向けた工程表について

（事務局）これまで平成 25 年度まで記載されていたものを、今年度も含め平成 30 年度までに延長した。新たな取り組みについては、四角い枠に囲んであり、資料 2 でその概要をまとめている。

内容が重複する取り組みについては、ひとまとめにしてある。

ロードマップについては、随時柔軟に変更していく。

・質疑応答なし。

## 3. その他

第 3 期産業振興会議の委員任期が満了となることから、委員より一言いただいた。

### （委員）

2 年間参加して、実態調査の委員も兼ねており、アンケート作成、集計にも携わった。実際に調査すると改めて課題がわかり、議論する中で改めて気づかされた部分もあった。振興会議での議論が他の会議での発言のベースになっている。

経営基盤の情報発信のところでは、市が事務局となっている海外展開連絡会議もようやく深い議論を行う流れになり、また、六次産業化の支援についても、みんなで事業者、産業振興のためにまとまった情報発信するという流れになっている。

今後はコンサルティング室に異動が決まっており、地方創生が業務の中心。今度は地方創

生に向けて市、十勝全体を盛り上げていければ。

(委員)

同じ時期に総合計画の委員会と産業振興会議に参加した。

本会議に参加して、事業主体が入り組んでいるものがあるといった発見があった。観光の部分に役割があったのかとも思うが、どれだけ意見を形にできたかはわからないが、次期に向けていい方向になれば。今の情勢に引っ張られすぎず、ブレのないものになれば。得たものがたくさんあった。

(委員)

総合計画や、教育基本計画の委員会に参加しており、議論している部分が重なっているが、会議主体によって方向が異なり勿体無い。どこがどうまとめていくかはわからないが、様々な意見がある中で、うまくまとめながら市が素晴らしい街になるようにすすめてほしい。人材育成の専門部会に参加してきたが、今後、いかに具体的な事業にするかが大事。もう始まっている。長期的に何ができるかを考えなければ。

帯広商工会議所の経営開発委員会で国の地方創生の助成金の情報、主体が決まっていないなど情報が足りない状況。今後、事業、補助金をどこに聞けば使えるかということを知りやすく説明できる場所が課題らしい。広報という部分では市なり商工会議所が大事になってくる。

同友会で、インターンシップ事業を継続しなければ成果が出ないという話をした。ワークワークも作るだけでなく、今後も継続してほしい。十勝型インターンシップ事業も予算がなく、協力した企業も困っている。先の販路を考えている状況でハシゴを外されると困る。高校生の夢を叶える姿を最後まで見たかった。UI ターンについても継続して行ってほしい。

(委員)

普段の仕事と頭の使う場所が違う。事業は「やりたい」ということから全てスタートしており、理論付けは願望からスタートする。税金を使うため理論から入る部分に戸惑う。慎重にならなければいけないが、行動しながらアイデアを詰めるというのもいいのでは。ワークワークももう一回続くということで考えているが、作ることがゴールではなく、それを使ってどうするか。民間に手放すのであれば、実験的なチャレンジをする必要を感じる。

会議では実験的なことをやってみて、議会で刺されるくらいのギリギリでやってほしい。

批判を恐れずに。

(委員)

私は2つの役割を持っていると感じている。

ビジョン策定当時の思いを途切れさせないようにするということ。

また、小規模の事業所の実態や声を反映させたい。

小規模企業の問題を国が法律化し、産業振興ビジョンに位置付けられたのはうれしい。

実験的な事をチャレンジ、まずやってみようということを議論できれば面白い。一つのことに固執するのもよくないが、振興会議にはチャレンジが必要。

他の道内との比較も必要。十勝の経済人はいい街を作ろうということと、十勝の現状認識が前向きで一致している。他のまちにはほとんど無い。会議が作り上げてきた宝と感じる。

(委員)

同友会の求人担当をしており、若年層のUIターンなどで関わってきた。いろいろ補助もつき、感謝している。第2のワークワークの話もあるが、同友会を中心に動くと思うが、いろんな情報やツールがあるので、なんとか成果が出るように関わっていきたい。

(会長)

充実した1年間だった。取りまとめさせてもらった。成果を出さなければという危機感があり、具体的なものにしたかった。なんらかの形を残せたのでは。

来季はわからないが、ぜひ他町村との連携を密にしてほしい。別団体でチーズ産業に関わっており、販路拡大にも努めている。行政が本気にならないと厳しいという言葉もいただいている。町村5箇所にもたがっている中で、どこが本気になるか。

帯広市は十勝全体を取りまとめる役に徹しなければ、フードバレーは達成できない。行政のネットワークは是非行政同士で。十勝は十勝の経済圏で進めていかなければ。

(相談役)

委員の成長に驚いている。振興会議は目的があり、民間に地域をしっかりと考える人を増やしていくこと。小さな波を起こしていただきたい。

行政に是非継続性、中身を捕まえてほしい。行政の役割は中央との関係構築と税の分配にあり、自分たちで稼ぐ頭が必要だった。そのためには、行政のあり方を考える人を増やしたかった。

他の地域では、「帯広はいいですね」という話になる。振興会議できちんと討論できる場を

維持している。こういった場が今後の発展につながる。

是非市長にも一年に1回は会議の場に来てほしい。最初と最後か、年に何回かきてほしい。

前回お話をお聞きして素晴らしいと思った。施策として活かしていければうれしい。

(事務局)

本誌の産業振興に議論いただき、また、大変熱い思いを聞かせていただき誠にありがたく思う。

第3期の任期では、特別なミッションとして実態調査、ビジョンの見直し作業があり、資料をひもとくと、親会議は14回、専門部会は16回。1期2期を大きく上回っている。今後はロードマップに沿って実行するが、それだけでなく事業者の事業に結びつくことが重要。地方創生の話もあったが、地域が主体性を持って取り組んでいくことが必要となる。

地方創生の一部には税金のバラマキと言われている部分もあるが、補助金がバラマキではなく、持続的な取り組みにどう進めて行くか、行政だけでなく事業者も含めてやるべき。事業が終わっただけでなく、そこからどう効果を引き出していくか。そこをいかにフォローアップして効果を高めていくかが重要

(事務局)

平成27年3月末をもって異動する職員を紹介

4. 閉 会

以上